

2026年4月19日 復活節第3主日礼拝次第

主日礼拝

前奏 (黙想)

招きの言葉 エゼキエル書34章 11～12 節(旧約 1352 ㊦)

讃美歌 327(すべての民よ、よろこべ)

主の祈り <A>(讃美歌93-5)

詩編交読 詩23編 1～6 節(交読詩編 29 ㊦)

聖書 ヨハネによる福音書10章 7～18 節(新約 186 ㊦)

祈禱

讃美歌 359(ひつじかい)

説教 「ほかの羊もいる」 田中雅弘牧師

讃美歌 459(かいぬしわが主よ)

信仰告白 使徒信条<A>(讃美歌93-4)

献金

讃美歌 88(こころに愛を)

派遣祝福

後奏 (黙想)

報告

※讃美歌は原則として全節を歌います

聖書 ヨハネによる福音書10章 7～18 節

イエスは良い羊飼

7 イエスはまた言われた。「はっきり言うておく。わたしは羊の門である。8 わたしより前に来た者は皆、盗人であり、強盗である。しかし、羊は彼らの言うことを聞かなかった。9 わたしは門である。わたしを通過して入る者は救われる。その人は、門を出入りして牧草を見つける。10 盗人が来るのは、盗んだり、屠ったり、滅ぼしたりするためにほかならない。わたしが来たのは、羊が命を受けるため、しかも豊かに受けるためである。11 わたしは良い羊飼である。良い羊飼いは羊のために命を捨てる。12 羊飼いでなく、自分の羊を持たない雇い人は、狼が来るのを見ると、羊を置き去りにして逃げる。——狼は羊を奪い、また追い散らす。—— 13 彼は雇い人で、羊のことを心にかけていないからである。14 わたしは良い羊飼である。わたしは自分の羊を知っており、羊もわたしを知っている。15 それは、父がわたしを知っておられ、わたしが父を知っているのと同じである。わたしは羊のために命を捨てる。16 わたしには、この囲いに入っていないほかの羊もいる。その羊をも導かなければならない。その羊もわたしの声を聞き分ける。こうして、羊は一人の羊飼いに導かれ、一つの群れになる。17 わたしは命を、再び受けるために、捨てる。それゆえ、父はわたしを愛してくださる。18 だれもわたしから命を奪い取ることはできない。わたしは自分でそれを捨てる。わたしは命を捨てることもでき、それを再び受けることもできる。これは、わたしが父から受けた掟である。」

主の祈り A(讃美歌21 93-5-A)

天にまします我らの父よ、ねがわくはみ名をあがめさせたまえ。

み国を来らせたまえ。みこころの天になるごとく 地にもなさせたまえ。

我らの日用の糧を、今日も与えたまえ。

我らに罪をおかす者を 我らがゆるすごとく、我らの罪をもゆるしたまえ。

我らをこころみにあわせず、悪より救い出したまえ。

国とちからと栄えとは 限りなくなんじのものなればなり。 アーメン。

讚美歌327番

- 1 すべての民よ、よろこべ、
主イエスは死に勝ちませば
陰府のちから はや失せて、
ひとのいのち かぎりなし。
- 2 明日を知らぬ 世に住み、
涙の谷 たどる身の
悲しみも悩みも消え
今は喜びにあふる。
- 3 主は栄光の御座につき、
みつかいらはほめ歌う、
「主イエス死に勝ちたまえば、
人は生きる とこしえに」。

讚美歌88番

心に愛を 豊かにみだし
日ごとのわざに つかわしたまえ

讚美歌359番

- 1 ひつじかいは 愛と真実に満ちて
勝利の道へ 伴いたもう。
われら御名を ほめたたえん。
- 2 祭司なる主 聖き宴に招き、
悩む者に いのちをたもう。
われら御名を 呼び求めん。
- 3 主は御手もて 民らを導きたもう。
その御言葉 道を示し、
信ずる者を 強めたもう。
- 4 喜びもて いのちの限り歌え。
教会はみな ひとつとされ、
主の支配を 宣べ伝えん。

讚美歌459番

- 1 飼い主わが主よ、まよう我らを
若草の野べに ともないたまえ。
我らを守りて 養いたまえ、
我らは主のもの、主の群れなれば。
- 2 良き友となりて 常にみちびき、
まよわば尋ねて つれ帰りませ。
我らの祈りを 受け入れたまえ、
我らは主のもの、ただ主に頼る。
- 3 赦しのみちかい、救いのめぐみ、
きよむる力は ただ主にぞある。
我らをあがない 生命をたまう、
我らは主のもの、主に在りて生く。
- 4 主よ、いつくしみを 我らに満たし、
今よりみむねを なさしめたまえ。
我らをあわれむ み恵みふかし、
我らは主のもの、ただ主を愛す。